

香月英子と申します。今、上尾市に住んでいます。

私は、終戦時、中国の牡丹江省寧安県にいました。当時5歳でした。

家族は父と母と弟と私の4人だったことを覚えています。でも、自分の名前や、家族の顔は思い出せません。終戦直後のことで、少し覚えているのは、母と弟と私の3人で逃げたことです。そして、はっきり思い出せませんが、母は誰かに殴られて亡くなりました。弟は井戸に投げ捨てられました。父は一緒にいませんでした。たぶん、兵隊としてどこかに行っていたのだと思います。

私は、一人で泣いていたところを、養母の弟の息子に助けられました。私の従兄弟になる人です。従兄弟は、一人で泣いていた私を抱えて、そこから4、5キロ離れている、叔母のところに連れて行きました。叔母には子どもがいなかったからです。その人が私の養母になりました。私は何日間か一人でいたみたいで、あと何日か遅かったら命がなかったかもしれない状態だったそうです。

私が一人で泣いていた所は、日本人の開拓団が住んでいた場所からそれほど遠くないところだったそうです。だから、私の家族は、開拓団として日本から満州に渡ったのだと思います。

私を助けてくれた従兄弟は、当時30代ぐらいで、足が悪く、入れ歯をしていて、話すと入れ歯が口から飛び出すのです。それが怖くて、怖くて、

わたし いとこ ちかよ ものかげ かく ご
私は従兄弟に近寄らないように、いつも物陰に隠れていました。その後、
いとこ はな ぼしょ い はや な わたし
従兄弟は離れた場所に行ってしまう、早くに亡くなってしまったので、私
がようぼ いえ つ こ とき き
が養母の家に連れて来られた時のことをあまり聞けませんでした。

わたし ようぼ いえ つ こ わたし わんぴーす き はだし
私が養母の家に連れて来られたとき、私は、ワンピースを着て、裸足
でげた は 履いていたそうです。そして、蚊にか さされてぼこぼこだったそう
です。わんぴーす うら てがみ かね ぬ つ ようふぼ
ワンピースの裏には、手紙とお金が縫い付けてありました。養父母
はじ よ 読めませんでしたから、かね てがみ す
は字が読めませんでしたから、お金だけもらって、手紙は捨ててしまいま
した。でも、いっしょ てがみ み ひと なか かんすうじ か せいねんがっぴ おぼ
でも、一緒に手紙を見た人の中に、漢数字で書かれた生年月日を覚
えていた人がいました。わたし たんじょうび ねん がつようか
私の誕生日が 1940年6月8日ということは、
たし おも
確かなことだと思います。

わたし ようふぼ いえ さいしょ ころ ことば な
私は養父母の家で、最初の頃、言葉がわからなくて泣いてばかりいま
した。わたし ちい じぶん にほんじん ようふぼ ちゅうごくじん
私は小さかったので、自分が日本人だとか、養父母が中国人だど
かは、ぜんぜん わかりませんでした。「お父さん、お母さんはどこに行ったん
だろう。わたし なん つ こ かんが
私は何でここに連れて来られたんだろう。」と、考えていま
した。そして、「どうしてこの人たちの話 してることがわかんないのかな。
わたし ぼ か おも
私、バカになっちゃったのかな」と思っていました。

とうじ てっぽう おと き よなか おと
その当時、まだあちこちで鉄砲の音が聞こえていて、夜中に音がすると、
め さ こわ
目が覚めて怖かったです。

いちねん
一年ぐらいして、養父母が話していることがわかるようになりました。

ようふぼ いえ のうか わたし じぶん こ そだ よう
養父母の家は農家で、私を自分の子どもとして育ててくれました。養
ぼ さい ようふ さい どうじ にほんじん こ そだ
母は25歳で、養父は35歳でした。当時、日本人の子どもを育てるのは
たいへん おも ひろ
大変なことだったと思いますが、「拾ってきた」とか「もらった」ということ
い
を言われたことはありませんでした。

ようぼ はな ひと さけ す ようふ むくち ひと とらんぷ
養母はよく話す人で、お酒が好きでした。養父は無口な人で、トランプ
に ちゅうごく かーどげーむ す
に似た中国のカードゲームが好きでした。

さい きろ はな しょうがっこう にゅうがく ちい がっこう
9歳のとき、2、3キロ離れた小学校に入学しました。小さい学校で、
1, 2, 3年生がみんな一緒に勉強しました。授業は、国語、算数、体操な
ねんせい いっしょ べんきょう じゅぎょう こくご さんすう たいそう
どでした。学校が終わると、畑仕事や水くみや料理などの手伝いがあ
がっこう お はたけしごと みず りょうり てつだ
ったので、すぐに家に帰りました。料理するとき、背が低くて鍋に届か
いえ かえ りょうり せ ひく なべ とど
なかつたので、踏み台に乗って料理しました。水くみは、家の裏の小川
ふ だいの りょうり みず いえ うら おがわ
の水をくんできて、大きなカメに貯めておきます。冬は零下40度ぐらい
みず おお た ふゆ れいか ど
になるので、小川の水は凍ってしまいます。凍った氷に穴を開けて水を
おがわ みず こお こお こおり あな あ みず
くみました。手に「しもやけ」や「あかぎれ」ができました。

わたし ある まわ おとな おんな こ にほん
ときどき、私が歩いていると、周りの大人たちが、「あの女の子、日本
じん こ こそこそはな いえ かえ わたし な
人の子どもだよ」と、コソコソ話していました。家に帰って、私が泣きな
にほんじん い ようぼ うった ようぼ ちが
がら「みんなが日本人って言ってる」と、養母に訴えたと、養母は、「違う、

ちが ひてい ようぼ わたし にほんじん おんな こ
違う」と否定しました。また、養母は、私のことを「日本人の女の子」と
い ひと み にほんじん おお こえ どな
言っている人を見ると、「日本人じゃないよ」と、大きい声で怒鳴って
ました。

さい きろ はな まち ようふ じぶん いえ た ひ
13歳のとき、15キロぐらい離れた町に、養父が自分で家を建てて、引
こ わたし にほんじん だれ し とち い
越しました。私が日本人だということを誰も知らない土地に行きたかつ
たのではないかと思いますが、養父母はそのことについては何も言いま
せ
んでした。

わたし じゅうみんひょう てつづ こうあんきょく い しょちょう
私が住民票の手続きをしに、公安局に行ったとき、その所長に
「あなたは日本人だよ。国籍を日本人にするか、中国人にするか決めな
さい。」と言われました。私は、両親に相談してから決めると言って、家
い
に
かえ
帰りました。このことを養母に尋ねると、養母は、「日本人じゃないよ、
ちゅうごくじん きろ はな ところ き まえ にほんじん
中国人だよ。15キロも離れた所に来たのに、どうしてお前が日本人かど
うかなんてわかるのさ」と言いました。

わたし つぎ ひ こうあんきょく い はは にほんじん い
私は、次の日に公安局に行き、「母が日本人じゃないと言ったので、
ちゅうごくせき い わたし ちゅうごくせき
中国籍にしてください」と言いました。それで、私は中国籍になりました。
た。

ちゅうがっこう い いえ てつだ
中学校にはしばらく行きましたが、家の手伝いがたくさんあったのと、
がっこう いえ とお
学校が家から遠かったので、やめました。

16歳さいぐらいのときに、人民公社じんみんこうしゃで会計かいけいの仕事しごとをしました。ボランティアぼらんていあみたいなもので、給料きゅうりょうは出ませんででした。また、その頃ころ、小学校しょうがっこうの先生せんせいができる人ひとが誰もだれいませんでした。「やってみないか」と言われて、私わたしは先生せんせいをすることになりました。教師きょうしは私わたしを入れて3人いで、生徒にんは10人せいとぐらいでした。国語こくごと算数さんすうを教えました。昼ひるは小学校しょうがっこうの先生せんせいとして働はたらき、夜よるは時々ときどき、会計かいけいの仕事しごとをしました。仕事しごとが終わって家いえに帰かえると、家事かじもして忙いそがしかったです。小学校しょうがっこうの先生せんせいの仕事しごとは給料きゅうりょうも、もらえたし、とても楽たのしかったです。

19歳さいのとき、知り合しいが紹あ介しょうかいしてくれた人ひとと結けっこん婚おとしました。夫おともその知り合しいも私わたしが日本にほんじん人しだということを知しっていました。

1年ねん後ご、長ちやうなん男うが生まかじれ、家事いと育いそが児がで忙ようしくなりました。養母あかに、「赤あかん坊ぼうの面めん倒とうは自分じぶんで見みなさい」と言いわれたので、好すきだしょうがっこうった小せんせい学せ校いの先生せんせいの工しごと作やを辞やめました。

その後ご、男おとこの子こが1人ひとりと女おんなの子こが3人にん生まうれ、子こどもは全ぜん部ぶで5人にんになりました。

1966年ねんから1976年ねんの文ぶん化か大だい革かく命めいの頃ころ、日本にほんじん人にほんじんや、日本にほんじん人にほんじんと結けっこん婚おとした人ひとは、罪ざい状じょうが書かかれた看かん板ばんを首くびから下さげて、大おお勢ぜいの人ひとの前まえに立たたされて、批ひ判はんされたりしました。養母ようはとてしんも心しん配ぱいして、親しん戚せき中じゅうに「娘むすめが日本にほんじん人にほんじんの子こ

どもだと誰にも言わないでほしい」とお願いしていました。それで、私たち家族は危険な目にあうことはありませんでした。

1972年の日中国交正常化のあと、公安局から「日本に行って、両親を捜して来たらどうか」と言われました。私が日本人かどうかということは、今までぼんやりした気持ちでいましたが、この時はっきりと、「私は日本人なんだ」と思いました。

私は、肉親に会ってみたいという思いと、でも、長い時間が経っているので、見つかるかどうかわからないという思いもあり、希望と不安が入り交じった複雑な思いでした。

私が日本に肉親捜しに行くことについては、夫はもともと何も言わない人なので、反対しませんでした。養父母は、日本で親戚が見つかって、私が日本に行ってしまうことをとても心配して、賛成してくれませんでした。中国の習慣では、親を大切にしなければならないので、私は、養父母や夫の両親が活着ているうちは、日本には帰れないと思いました。

1978年に、養父が亡くなりました。そのあと、公安局の人や周囲の人たちが養母を説得してくれて、私は、訪日調査に参加することになりました。

ねん がつ おり ん ぴ っ く せ ん た ー お こ な ほ う に ち ち ょう さ ら い に ち
1983年2月、オリンピックセンターで行われた訪日調査のために来日

に ち か ん たい ざ い と き わ た し さ い
して、15日間滞在しました。この時、私は43歳でした。

し ん ぶん じ ょう ほう み に く し ん き き
テレビや新聞の情報を見て、肉親が来てくれるんじゃないかという希
ぼう も ま に く し ん こ じ へ や し ん せ き た ず
望を持って待っていました。肉親が見つかった孤児の部屋には、親戚が訪
ね て き き し ん せ き い っ し ょ ふ り さ と い どう し つ は る び
ねて来たり、親戚と一緒に故郷に行ったりしていました。同室の、ハルビ
ん き ひ と お じ み ひ と り へ や
ンから来ていた人は、叔父さんが見つかりました。一人になった部屋で、
わ た し だ れ し ん せ き く ま だ れ あ き
私も、誰か親戚が来るかなと待っていましたが、誰も会いに来ませんで
し た さ び ひ と り な は ん た お お し つ
した。寂しくて一人で泣きました。ご飯も食べられなくなって、大きな失
ぼう あ じ
望を味わいました。

たい ざ い ち ゅう つ う や く と お こ う せ い し ょ う ひ と に ほ ん か え
滞在中に、通訳を通して、厚生省の人から「日本に帰ってきますか。ど
う しますか。」と、聞かれました。私 は 身 元 が わ か ら な か っ た し、養 母 に
そ だ お ん お っ と か あ
育ててもらったという恩もあったし、夫のお母さんもいたので、すぐに
に ほ ん き こ く お も
日本に帰国しようとは思いませんでした。

と き ち ょう さ に ん ら い に ち に ん み も と は ん め い が つ
その時の調査では、45人来日して、25人の身元が判明しました。2月で
と とも さ む さ び お も ち ゅう ご く も ど お ぼ
とても寒くて、寂しい思いで中国に戻ったのを覚えています。

ご お っ と か あ な こ し ょ う ら い か ん が に ほ ん
その後、夫のお母さんが亡くなり、子どもたちの将来を考えて、日本
に 行 っ た 方 が い い か も し れ な い と 考 え る よ う に な り ま し た。当 時 は、中
い ほ う か ん が と う じ ち ゅう
国にいても、子どもたちが、いい仕事に就けるかどうかわかりませんでした
ご く こ し ご と つ
た。それで、夫のお母さんの3回忌を終えた後、日本に行くことにしまし

た。

家族みんなで帰って来たかったけれど、養母は日本に行きたくないと言
い、20歳以上の子どもは同伴できませんでした。中国に養母や子ども
たちを残して帰国するのは心配でしたが、覚悟を決めて、夫と三女と私
の3人で帰国しました。この時私は50歳でした。

帰国後は、所沢の定着促進センターで4ヶ月の研修を受けました。こ
の研修期間に何回も会いに来てくれた方がいました。私が訪日調査で
初めて日本に来たときに、ボランティアをしていた「もちながさん」という
方です。もちながさんは、子どもの頃、中国のハルビンに家族で住んで
いたので、中国語が話せました。とても親切にしてくれて、今でも交流
が続いています。

実は、私の日本名の香月は、「もちながさん」の旧姓をもらって付けた
苗字です。そして、名前の「英子」は、中国名の「鳳英」の「英」から「もち
ながさん」が考えてくれました。いい名前だと思っています。

もちながさんは、今95歳です。日本の私のお母さんです。大好きで
す。

上尾市に定着した後、日本語はまだまだでしたが、日本での生活が落
ち着いてきた頃に、老人ホームで、掃除やシーツ交換などの仕事をしまし

た。一緒に働いていた人たちが、親切にいろいろ教えてくれて、日本語も少しずつわかるようになりました。このときの同僚とは、今もいい友だちです。

養母は、中国残留孤児援護基金の招待制度を利用して、日本に来たことがあります。養母が中国に帰ってから「日本はとてもきれいだっ」と親戚に話したことを聞いて、養母は満足していたのだと嬉しく思いました。少しは親孝行ができたと思いました。養母は1996年に76歳で亡くなりました。

10年前、夫が亡くなりました。私は、元気なうちは、子どもたちに負担をかけたくないの、子どもたちには、私が本当に動けなくなったら、介護申請をしてヘルパーさんに頼むと話しています。

私が中国にいたとき、周囲の人たちは私が日本人だと言いました。そして、日本に来て30年近くになりますが、私の日本語を聞いた人たちは「中国人ですか」と聞きます。50歳で帰国して以来、日本語の勉強を続けていますが、言葉を覚えるのはとても大変で、難しいです。

たまに私は何人だろうと考えます。私は、中国で育って、今、日本で生活しています。子どもや孫たちも全員日本にいて幸せです。ただ、

にほん せいかつ ちゅうごく せいかつ ほう なが ちゅうごく きょう
日本での生活よりも、中国での生活の方が長いですから、中国への郷
しゅう きも たと こ がいしょく にほんしょく た
愁の気持ちもあります。例えば、子どもたちは外食すると日本食を食
べますが、わたし ちゅうかりょうり ほう た
べますが、私は中華料理の方が食べたいです。

わたし ねんまえ ほうにちちようさ みもと ほんめい ち
また、私は27年前の訪日調査で身元は判明しませんでした。血のつな
おや しんせき ひと おも しんせき
がった親や親戚はどんな人なんだろうと思うときもありますが、親戚がみ
つかっても、うま かが じっさい うま はなし
つかっても、上手くいくとは限りません。実際、上手くいかなかった話
も聞いたことがあるので、わたし おも
も聞いたことがあるので、私は、これでよかったと思っています。

わたし にほんじん
「私は日本人でしょう」。

なに ようふ ぼ おん いっしょう わす い
何よりも、「養父母への恩は一生、忘れません」、と言いたいです。

きょう みな ひとりひとり わたし じんせい し
今日は、皆さん一人一人に、私たちの人生について知っていただき、
ざんりゅうほうじんもんだい かんが おも ゆうき だ はな
残留邦人問題について考えていただきたいと思い、勇気を出してお話し
しました。

さいご せいちょう
最後まで、ご清聴、ありがとうございました。